

力的な研究が行われており、その結果によると、対流圏では高緯度ほど昇温の程度が大きいたことが示唆されている。これらの結果が正しいとすると、当然、気温の南北傾度は減少し、単純に考えて、南北循環すなわち低示数型の循環が卓越してよいことになる。

この意味で注目されるのは、本報で指摘したアラスカ方面の高度上昇(温暖化)である。また、近年における高緯度における気温上昇については、山本・星合(1979)によって事実として認められており、これら高緯度の不連続的とも思える昇温を説明し得るのは、目下のところCO₂の増加が最も有力な要因と思われる。

以上、まだ検討不足の点が多いが、本報で指摘した現象に対し、つぎのような見解をのべまとめとしたい。

現在、冬季の北太平洋東部にみられる著しい高度低下は、CO₂の増加に伴う高緯度温暖化の一側面(一過程?)として現われた可能性がある。また、SOI との対応については、むしろ結果であり、持続的な大気の流れの異常が赤道域の海水温異常につながったように思われる。

おわりに

月平均図や季節平均図を眺め、最近気の付いた点をまとめたのがこの小論である。検討不足の点は多々あるが、現在冬の北太平洋域に起こっている変化は、かつて

経験したことのないものである。長期予報の現場では、来るべき夏の予想に冬の循環特徴を使うことが多いが、この意味で、この小論が少しでもお役に立てば幸いである。

終りにのぞみ、本現象に対し種々後教示戴いた根本順吉氏と朝倉正氏に厚く御礼申し上げます。

文 献

- Wallace, J.M. and D.S. Gutzler, 1981: Teleconnection in the Geopotential Height Field during Northern Hemisphere Winter. *Mon. Wea. Rev.*, 109, 784-812.
- Horel, J.D. and J.M. Wallace, 1981: Planetary-Scale Atmospheric Phenomena Associated with Southern Oscillation. *Mon. Wea. Rev.*, 109, 813-829.
- 時岡達志・鬼頭昭雄・片山 昭, 1983: 東部赤道太平洋の異常海水温の影響に関する数値実験—El Niño 完熟期における大気の応答—, 1983年日本気象学会春季大会予稿集, 52.
- 真鍋淑郎, 1983: 炭酸ガスと気候変動, 測候時報, 50, 200-221.
- Yamamoto, R. and M. Hoshiai, 1980: Fluctuations of the Northern Hemisphere mean surface air temperature during recent 100 years, estimated by optimum interpolation. *J. Met. Soc. Jap.*, 58, 187-193.

「気象研究ノート」原稿募集について

気象研究ノート編集委員会では、気象学に関する広範な分野を扱い、特徴ある印刷物を発行して来ました。このたび、さらにノートに変化を与え内容を一層豊富なものにするため、従来の編集方法のほかに、つぎのような内容のものを年1冊くらいの割合で出版したいと考えます。奮発しご投稿のほどお願いいたします。

- (1) いろいろなグループのセミナーなどで行っているレビューをまとめたもの
- (2) 科研費の報告などで、それに少し手を加えることにより最近の進歩の解説書となるもの
- (3) その他、特に若い会員の研究意欲を刺激するような内容のもの。なお、投稿要領はつぎのとおりです。

投稿要領

1. 原稿枚数 目安として400字詰め原稿用紙50~400枚(図表を含む)。
2. 図・写真 なるべくそのまま印刷できるような鮮明なもの

3. 採用決定 当編集委員会で行う。
4. 原稿料 内規による。
5. 著作権 原稿は他人の著作権などを侵害しないものであること。また掲載された報文の著作権は日本気象学会に属する。
6. 執筆要領 その他の執筆要領は「天気」の投稿規定に準ずるものとする。
7. 原稿送付 原稿は2部(うち1部はコピーでも可)を下記あて送付する。

〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内
日本気象学会「気象研究ノート」
編集委員長 竹内清秀

なお、将来は、パソコン使用の汎用性のある面白い計算やデータ処理のプログラム(フロッピーディスク)なども考えていきたいと考えています。皆様のご意見をお聞かせ下さい。(気象研究ノート編集委員会)